

2012年度は、8名体制で検査室の運営を行った。

4月の診療報酬改定に伴い、新しい検査の導入や超音波検査枠の拡大など、積極的に臨床支援を行った結果、検査件数が増加し増収にもつながった。

2月の病院機能評価に向け、プロジェクトチームの一員として検査技師も加わり検査環境の整備、各種マニュアルの見直しをおこなった。

【検体検査】

病棟で採血された検体の確認や紛失防止目的や、病棟看護師支援のひとつとして、尿検体を含めた早朝の検体回収を開始した。さらに、救急外来での検体受け取り手順の改定と緊急報告が必要な異常値の再定義を行い、迅速に確実な検査結果の報告に努めた。

検体検査の主力機器である生化学自動分析装置の老朽化もあり免疫血清分析装置と併せ、機器整備の検討を開始した。

チーム医療ではNST、褥瘡管理、ICTの回診に常時1名参加し、情報提供を行っている。さらに担当技師で協働し糖尿病教育入院への積極的な関与や情報提供に努めている。

【生理検査】

健診受診者の増加や腹部超音波検査枠の拡大により、前年より検査件数が増加した。超音波検査を担当する技師を増やすために乳腺、腹部、心臓領域で3名の技師の研修を行ってきたが、日常検査を担当できるところまで育成することができた。さらにレベルアップをめざしたい。

10月には新しい超音波検査装置が導入され、腹部や血管領域の検査がスムーズに行えるようになった。(腹部エコー 1,843件 前年 1,742件)

2012年度は、超音波検査士(泌尿器領域、心臓領域)各1名が合格することができた。

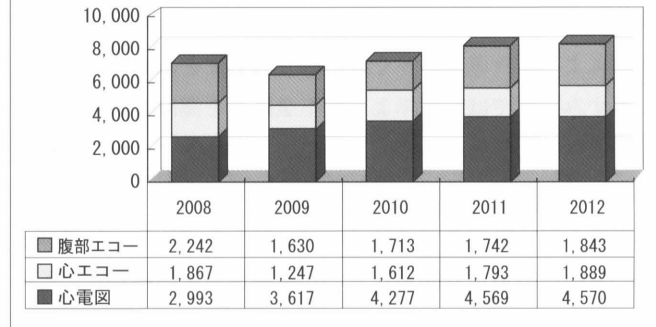
【今後の展望】

前年から超音波検査の本格的な研修を行ってきたが、2012年度も新たに血管領域や腹部領域の研修を行い、体制を強化する。

2013年4月からは技師1名が加わる予定であり、検体検査部門とのカバーリング体制も本格的に構築して行きたい。

検査機器の整備計画では検体検査の主力機器である生化学自動分析装置の更新を検討し、コスト削減や検査項目の充実を図っていききたい。

主な生理検査年度別推移



主な検体検査年度別推移

